

のもあったが、大学の教員や臨床を行っているものも多かった。これは国際協力関連の勤め口に魅力がないのか、人材のミスマッチを起しているのが、今後の人材開発研究が期待される。

今回は性別、職種別、実施回別などで修了生の属性を見たが、修了生の類型化(例えば、研究者型、JOCV型、検疫所・自衛官型、モラトリアム型など)を試み、そのタイプによって研修の有効性と効果を調べると新たな事実が明らかになるかも知れない。

#### 4.4 他の研修との関連

他の関連研修の受講の有無は、1名しかいない歯科医師を除くと、他の研修も受講している割合は医療関連資格を持たない受講生が最も大きかった。これは、興味の対象が広いため、医療資格を持たないにも関わらず熱帯医学の研修を受講したとも考えられ、興味対象の広さからさらに他の関連研修も受講した可能性がある。臨床検査技師、助産師も過半数が他の関連研修を受講しているが、理由は不明である。

受講生の活躍と受講した研修の数との関連を調べると新たな事実が明らかになる可能性がある。

#### 4.5 人材育成について

本報告書では、本調査で収集した「現場で望まれる人材の育成」に関する意見を可能な限りそのまま掲載した。大枠で整理すると、国際社会の中で仕事ができる人材(語学力、交渉力、順応能力、運営管理能力)の育成、送り出し側の環境整備に集約されよう。後者は本分担当調査研究の範囲を超えるが、前者に関しては残念ながら、本研修の目的と方針から、本研修のカリキュラム内容で培われると期待されるものではない。

今回得られた意見の回答者は、本研修の修了生であり、本研修で技能と知識を身につけたその先にある意見である点に注意すべきである。すなわち、熱帯医学の専門性が前提とされているため、本調査結果から専門性よりも国際性の強化が優先されると短絡的に結論づけるのは誤りでありであろう。国際社会で活躍している人材が熱帯医学の知識を求めて本研修に参加することも少なくないことから、この点に関してはさらに慎重に調べる必要がある。

## 5 結論

本研修は、まだ課題が多くあるものの、全体としてその有用性を示す事例が多数あり、国際保健医療協力活動を志望するものに技能と知識を与え専門性を高めるものであることが示唆された。多数の国際保健医療協力活動の未経験者が、本研修修了後に国際保健医療協力活

動に従事している。しかしながら、修了生は、現場で望まれる人材として、国際社会で仕事ができる語学力、交渉力、順応能力、運営管理能力を強調した。そのため、運営管理能力(マネジメント)を強化するようなプログラムの導入を本研修に検討する必要がある。

## 6 研究発表

1. 溝田勉、谷村晋、鈴木千鶴子、坂野晶司、国井修、山本秀樹、「熱帯医学の人材育成プログラムに関する考察」、第22回日本国際保健医療学会西日本地方会、第22回日本国際保健医療学会西日本地方会抄録集 p.13、明石市、2004年3月

## 7 謝辞

回答項目の多い質問票にもかかわらず丁寧にご回答していただき、また貴重な意見を述べていただいた回答者の方々には心より感謝申し上げます。

# 「熱帯医学研修課程」修了生追跡調査 ご協力をお願い

長崎大学熱帯医学研究所  
所長 青木 克己  
教務委員長 嶋田 雅暁  
社会環境分野教授 溝田 勉

## 趣 旨

保健医療分野における国際協力の現場で望まれる人材の育成カリキュラム作成を模索し、我が国の保健医療分野での国際協力の質の向上の一助となることを目的として、「熱帯医学研修課程」修了生のみなさんの追跡調査を行います。

みなさんの回答を読んで、保健医療分野における国際協力の現場で実際に必要とされている知識と技能、および熱帯医学研修コースのカリキュラムの妥当性と効果を検討したいと思います。

なお、本調査は「我が国の国際協力を担う国内の人材育成および供給強化並びにキャリアパス拡充のために医学教育が果たすべき役割の研究」平成15年度厚生労働省科学研究費社会保障国際協力推進研究事業(研究代表者 溝田勉)の一環です。

### ■個人情報の取り扱いについて

アンケートに答えていただいた内容は厳重に管理し、趣旨に添った目的以外での利用はありません。

### ■記入上の注意

- ・各項目を指示通りに記入してください。
- ・該当するものがなければ空欄のまま構いません

### ■締切

- ・2004年1月31日までにご返送をお願いいたします。

### ■返送方法

- ・郵送の場合は同封の返信用封筒で切手を貼らずにご返送ください。
- ・e-mailにてご返送いただける場合には、Microsoft Word形式の質問票をWebサイトに公開していますので、こちらをご使用ください。<http://shakan2.tm.nagasaki-u.ac.jp/jinzai/>  
なおe-mailでの返送は、[kise@tm.nagasaki-u.ac.jp](mailto:kise@tm.nagasaki-u.ac.jp)宛てにお願いします。
- ・FAXでご回答いただける場合はFAX:095-849-7867にお願いします。

### ■問い合わせ・送付先

本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒852-8523 長崎県長崎市坂本1-12-4  
長崎大学熱帯医学研究所社会環境分野  
溝田 勉  
TEL 095-849-7866 FAX 095-849-7867

受講年度		
氏名	性別 男・女	年齢
所属先		
所属先住所 〒		
TEL e-mail		FAX
連絡先 〒		
TEL e-mail		FAX

1. 熱帯医学研修課程のカリキュラムについて

該当するところに○をつけてください。また、もしコメントなどがあればご記入ください。

	評価			実施して いない	分からな い	コメントなどがあれば ご記入ください
	非常に 役立つ	あまり役 立たない	全く役に 立たない			
ウイルス	_____	_____	_____			
細菌	_____	_____	_____			
真菌	_____	_____	_____			
原虫	_____	_____	_____			
寄生虫	_____	_____	_____			
マラリア	_____	_____	_____			
AIDS	_____	_____	_____			
結核	_____	_____	_____			
衛生動物(ヘビを含む)	_____	_____	_____			
臨床	_____	_____	_____			
免疫学	_____	_____	_____			
疫学・統計	_____	_____	_____			
病理	_____	_____	_____			
熱帯生理	_____	_____	_____			
母子保健	_____	_____	_____			
社会学	_____	_____	_____			

上記のカテゴリーに含まれない講義・実習があれば、上記と同様の評価分類を添えてこの欄に書いて下さい。もしあればコメントなどもお願いします。

実際に役に立った事例があれば、その内容を書いてください。

研修カリキュラムに含まれておらず、含めた方がよかったと思われる内容がありましたら下記に書いてください。

研修カリキュラムについて、何かご意見がございましたら下記にお願いします。



### 3. 国際協力活動などについて

熱帯医学または国際協力に関するこれまでの活動ないし業務がございましたら、下記に記入をお願いします。熱帯医学研修課程修了前と後を分けて書いてください。期間、任地、活動内容について可能な限り詳しく書いてください。

期 間	任 地	派遣団体など	活動内容
熱帯医学研修課程修了前			
熱帯医学研修課程修了後			

1. 特に該当するものがなければ未記入で結構です。
2. 用紙が足りない場合は適宜継ぎ足してください。

#### 4. 他の研修について

熱帯医学研修課程以外の熱帯医学または国際協力関係の研修を受講されたことのある方は、その受講期間、場所、内容について記入をお願いします。

期 間	任 地	研修内容	感想・コメントなど

※ 用紙が足りない場合は適宜継ぎ足してください。

#### 5. その他

保健医療分野における国際協力の現場で望まれる人材の育成に関してご意見がありましたら、お願いします。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



分担研究報告書

日本国際保健医療学会参加者の意識調査

分担研究者 坂野晶司（弘前大学医学部公衆衛生学講座）

分担研究者 山本秀樹（岡山大学大学院医歯学総合研究科）

研究協力者 石井明（自治医科大学名誉教授、日本国際保健医療学会理事長）

中田敬司（岡山大学医学部保健学科・非常勤講師）

研究要旨：日本国際保健医療学会の東日本・西日本地方会の参加者を対象に自記式質問紙法による調査を行った。主に20歳台の参加者からの意見が聴取された。キャリアパス発展のための最も大きな障害は、要求されるスキルと自分のスキルが一致しない点であった。今後創設して欲しいメディアとしては印刷媒体よりもWebを希求する傾向が認められた。

## A. 研究目的

国際保健領域で働くために必要なキャリアパス（経歴の積み重ね）の構築には正確な情報と本人の強い意志がかかせない。しかし、そのような希望のある人材がいかなる情報に接して（アクセスして）いるのか、またすでにキャリアを構築した人材はどのような情報から現在のポジションを得たのかに関する情報は不足している。

今回われわれは国際保健に興味のある人材が集まると思われる、日本国際保健医療学会東日本・西日本地方会において、調査票を用いた調査をおこない、これらの人材の接するメディアの種類や名称、またキャリアパス構築の障害となっている因子などについて検討した。

## B. 研究方法

「資料1」に示す調査票を下記の二カ所で配布、回収した。なお、西日本地方会の会場では、東日本地方会にも出席した人からは調査票を受け取らないようにし、二重カウントの防止をはかった。当日回答困難な場合には、返信用封筒を渡し、郵送での回

収も併用した。西日本に比べて東日本で回収率が低い原因は、東日本では全員に配布する抄録集に織り込んで配布したのに対し、西日本では個別に声をかけて配布したという配布方法の違いによるものである。

第22回日本国際保健医療学会西日本地方会（2004年3月6日、兵庫県立看護大学）

第19回日本国際保健医療学会東日本地方会（2004年2月28日、東京大学）

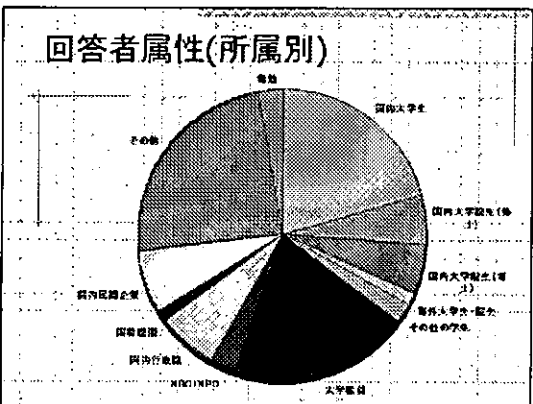
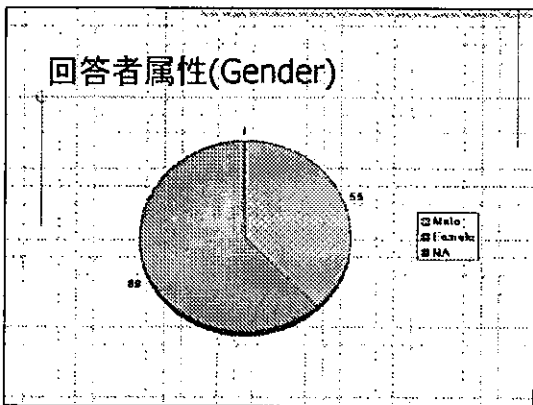
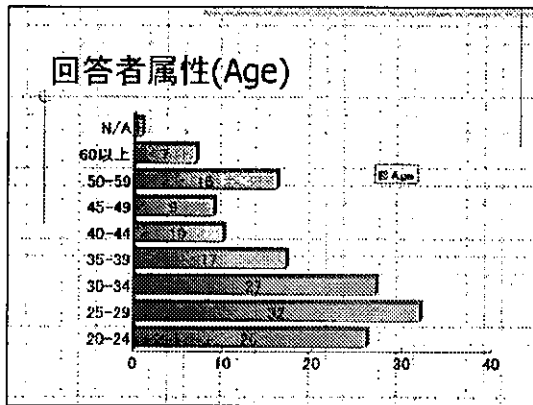
	配布数	回収数	回収率
東日本	126	75	59.5%
西日本	98	70 (うち郵送4)	71.4%
合計	224	145 (うち郵送4)	64.7%

## C. 研究結果

### 属性

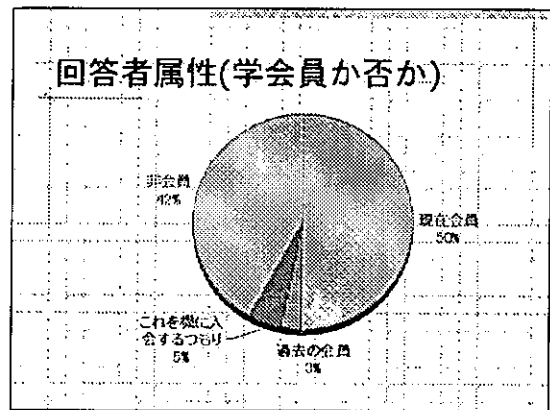
現在の所属、年齢、性別などの属性をたず

ねた。会場には女性の姿が目立ったが、回答者の約3分の2が女性であった。年齢は20代が多く、また現在の所属でも学部学生が多かった。ついで、「大学教員」「その他」が多かった。「その他」の回答は医療機関勤務が多かった。



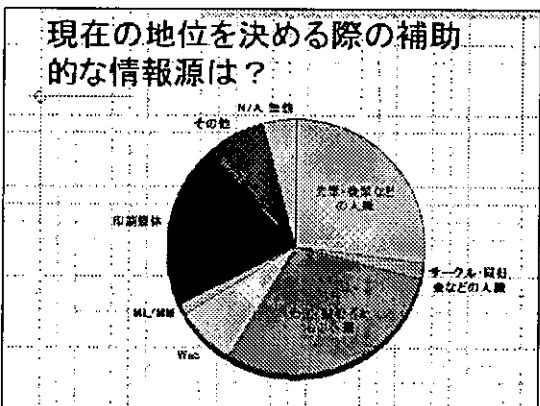
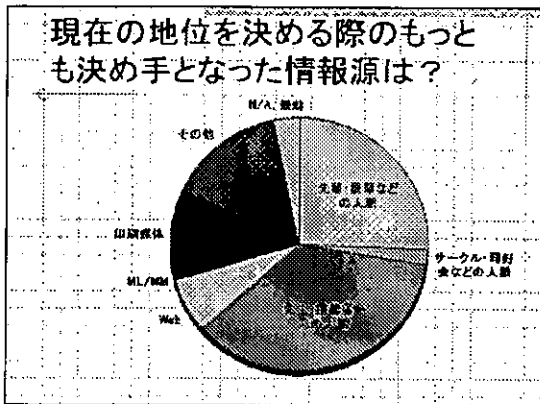
#### 国際保健医療学会への入会状況

国際保健医療学会への入会状況をたずねた。非会員が50%を越えており、今後の会員増強の余地が相当大きいことが示された。



#### 現在利用しているメディア

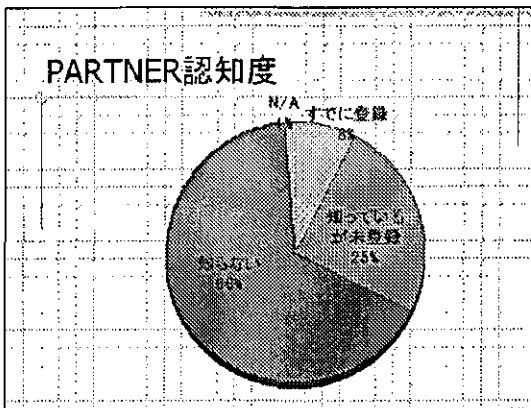
現在の大学や職場などの情報を如何にして得ているのかを尋ねた。先輩・指導者などの人脈からの情報が主に活用されている。インターネットからの情報源は多少補助的に使われているにとどまっている。



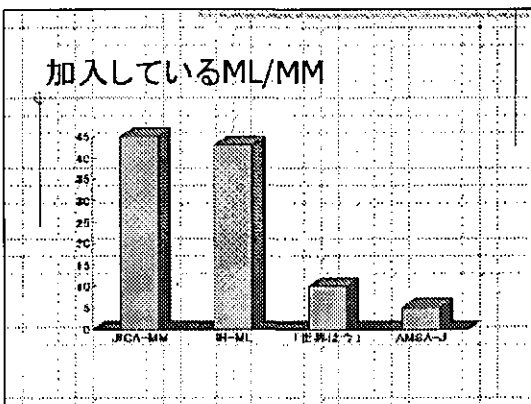
#### PARTNER認知度

JICA (独立行政法人 国際協力機構) PARTNER (国際協力人材センターが運営するホームページ) についてその認知度および利用度を調べた。PARTNERの認知度および利用度はまだ低く、登録して

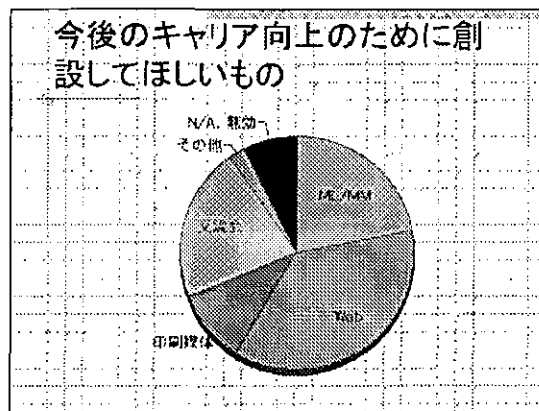
いる数は1割に満たなかった。今後の普及活動が望まれる。



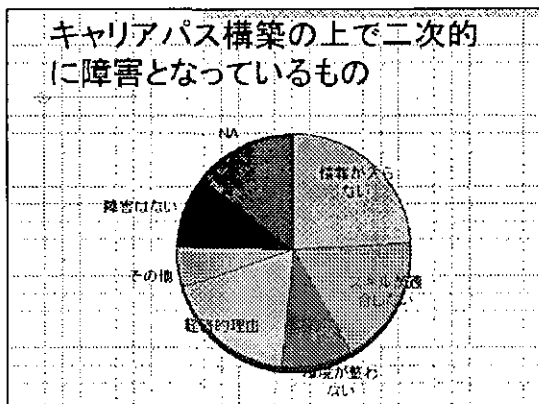
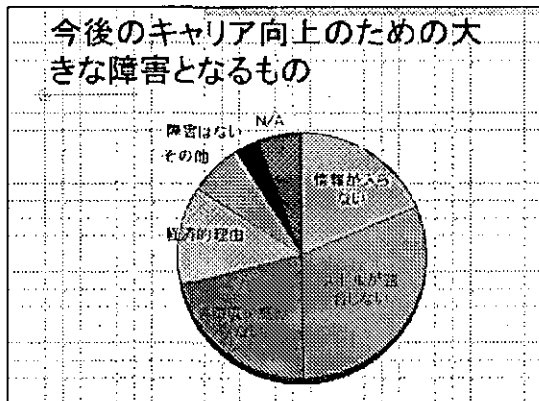
**アクセスしているメディア**  
 現在利用中の国際協力に関係の深いと思われるML (メーリングリスト) およびMM (メールマガジン) の利用度をたずねた。国際保健MLとJICAメールマガジンがほぼ同程度に利用されていた。



**キャリアパス向上のために今後創設してほしいメディアは**  
 キャリアパス向上のためにあらたに創設してほしいメディアの種類をたずねた。印刷媒体に期待するものは少なく、Webの情報第一位、情報交流会とML/MMがほぼ同程度に望まれていることが判明した。



**キャリアパス構築の障害**  
 「キャリアパス」の構築に際して障害となる因子を指摘してもらった。まったくないという回答はごく少数で、大部分の回答者がなんらかの困難を感じていることが判明した。「情報不足」「スキルの不適合 (要求されるスキルと自分のスキルが合わない)」「経済的理由」「自己の環境が整わない」がほぼ拮抗している。



**自由記載欄**  
 「キャリアパス」「人材育成」等に関する

意見を自由に記載してもらった。なお、文中「\*\*」で記載している箇所は、実際には固有名詞が記載されている。

国際協力を担う人材を育てるには、わが国の教育制度、中でも語学教育の見直しが必要であると思われる。

どんなに気持ちがあっても言葉が障害となっているケースは少なくない。流ちょうに英語を話すには語学学校、留学等が必要で、その他の専門知識と共に学んでいくには時間とコストがかかりすぎる。

義務教育の中で、多言語を習得できれば、国際社会に近づくのではと思う。

(30～34歳、女性、その他)

国際協力分野の活動の下地として、じっくり途上国とかかわる時間が必要だと思えます。JOCVはその一つと考えられますが、こうしたキャリアパスにつながる人材が育つといいなと思います。相手国への理解、愛情がある人物に国際協力分野で活躍してもらいたいです。

(50～59歳、女性、国内民間企業)

JICA、JBIC等のプロジェクトで新人(院生を含め)が参加できるシステムにしないと20～30歳台の能力が活用されない。

(50～59歳、男性、国内民間企業)

私は現在学生(看護学専攻)なのですが、学生の間にもう少し国際保健について勉強しておけば良かったと後悔しています。今年の4月から看護師として病院に勤務する予定で、看護師の経験を何年か積んだ

後、開発途上国などで働きたいと考えています。

私の大学(\*\*大学医学部保健学科)には国際保健の分野の教授がおらず、国際保健についての講義も学内では受けた事はありませんでしたが、今考えるともっと早く日本国際保健医療学会の存在を知り会員になり、学会等に参加し自分からアンテナを広げることにより、様々な機会を得ることができたと思います。今後は自らのアンテナを広げ、様々な機会を利用し国際協力を少しでも役立つ人材になるよう努めていきたいです。

(20～24歳、女性、国内大学生)

一度、現職(大学教員、公務員)を辞めてしまうと再就職は不可、年金、保障も失う。国際協力関係の人材育成を手がけているがこの問題を解決しない限り自信を持って学生に就職をすすめられない。

(45～49歳、女性、大学教員)

国際協力分野の仕事は一に人脈、二に実績、三に信念だと思えます。

(35～39歳、女性、大学教員)

## D. 考察

今回、母集団として国際保健医療学会の東西の地方会出席者を使用したのが、今年は東西の地方会が1週間という短い間隔で開催されたことから、時間的なズレのすくない対象を得ることができた。また、今回の調査においては、各地方会出席者に個別に声をかけて回収につとめたことにより、調査主体の意図が客体によく伝わり、この種

の調査では比較的高い回収率を得ることができた。

今回の母集団のジェンダー比率は女性優位であった。これは国際協力分野への女性の進出と関係しているものと思われた。また、回答者の属性で学部学生の比率が高かったが、これは地方会が学生にも参加しやすい比較的安価な参加費を設定している事も関係していると思われる。(東日本は1000円、西日本は500円)

すなわち、今回の母集団は主に国際保健を志す若い層の意見を反映しているといえる。

現在の大学やポジションを探すのに旧来的な手近な「人脈」が未だに重要な要素を占めていることが示されたが、今後5年あるいは10年後にこの趨勢がどのように変化するのか、フォローする必要がある。人材情報を交換する場として、印刷媒体があまり期待されていないというのは我々の想像通りであった。また、期待されているメディアはWebに期待する意見が最も多く、PARTNERをはじめとする新たな試みが運用次第では問題解決の大きなツールとなりえる事をしめしたが、運用開始から半年近くしか経過していないPARTNERはいかに今後浸透を図るかが大きな課題と言えそうである。

今回自由記載欄には非常に興味深い意見が散見された。特に身分保障に関する意見は重要であると思われた。「身分保障」という概念自体がきわめて日本的ではあるが、国内の意識が変わらない以上、この問題は避けて通ることができない。また、国際保健医療学会に期待する声もあったが、反面その組織率は高いとはいえず、会員増

強への取り組みが必要であると思われた。国際保健関係者が、より社会に対しても自らのレゾンデートルを積極的に主張しなければならないだろう。

本調査とは別に、15年10月に開催された同学会総会自由集会(「国際機関の職務の実際と求められる人材」)に参加した71人が国際機関(WHO,ILO,ADB,UNDP)の現職あるいは最近まで職員であった4人の講師にあてた質問を参考資料紹介する。(参考資料)

参加者の内訳は、学生40人(男16人、女25人)、社会人31人(男13人、女18人)で若い人の参加が多かった。また、学生・社会人ともに女性の関心が高かった。講師に対する質問を紹介する。

学生時代に身につけておくべきこと(語学や資格)や将来の生活設計(家族・所属先)に関する質問が目立った。

このような、国際協力の最前線で働く人と直に接する機会を学生等の国際協力に熱意を持つ人々に提供することの重要性が示唆される。

## **E. 結論**

100人の学生がいれば、そこには100通りのキャリアパスがあるわけであり、人材の問題を今回のような定量的な方法のみで論ずるには限界があることは明らかである。

研究班としては今回得られた結果をもとに、In-depth interview等の手法を取り入れた、より質的な評価を量的評価と並行して行うことが是非とも必要である。

## **F. 研究発表**

今年度、この課題に関する論文発表・学会

発表はない。

## 謝辞

今回の調査を実施するにあたり、東京大学大学院医学系研究科牛島廣治教授および発達医科学教室員各位には東日本地方会での調査で、また兵庫県立看護大学森口育子教授および広域看護学教室員各位には西日本地方会での調査で大変お世話になりました。

東京大学大学院医学系研究科国際保健計画学の奥村順子氏、BHNテレコム協議会の小宮正巳氏、岡山大学医学部保健学科の中田敬司氏、岡山大学大学院医歯学総合研究科神原咲子氏、長崎大学熱帯医学研究所の古川孝明氏、秦亮氏には調査票回収作業で大変お世話になりました。

また、国際保健医療学会総会自由集会の参加者調査をしていただいた労働科学研究所 教育・国際協力部吉川徹氏、ILO（国際労働機関）バンコク支局川上剛氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

**参考資料**（自由集会「国際機関の職務の実際と求められる人材」参加者から講師への質問）

<学生からの質問>

- ・なぜ国際機関の仕事に就いたか？
- ・家庭生活はどのように維持されているのか。特に女性に尋ねたい。
- ・国際保健の専門家という存在はあり得ると考えるか？
- ・ADB（アジア開発銀行）の policy は供与国側の実施義務があるとの事ですが、それはお金のローンがあるからか？
- ・ADB の人事は専門家はいらぬとの事ですが、学歴を選考にしている事と矛盾して

ないか？

・目標達成のため、日々の生活の中で意識していること。

・学生時代、やっておけばよかった、やっておいてよかったこと。

・現 WHO 職員の過去の具体的なフィールド経験内容に一定の傾向があるか？

・国際機関であることのアドバンテージとミスアドバンテージは何でしょうか？

国際機関と NPO/NGO との関係について（現状、今後の展望）ご意見を伺わせて下さい。

・最初に国際保健（あるいは現在の「目的」）を真剣に自分の将来として考えたきっかけをお聞きしたい。

・今の仕事をしていて、一番嫌だ、やめたいと思ったことは？

・学生時代、または就職してからの英語の勉強法について教えて欲しい

・国際機関の職務を手段として、次なる目標、夢は何か？

・学生時代に経験すると良いこと、しなければいけないと考えられることは何か？

・経済的にはいつになったら自立できるのか？

・給料や生活や待遇（親の死に目にあえないなど）の面で、日本人が”そこまでして頑張るって国際機関で働かなくても…”と感じるような要因はないのか？

<社会人からの質問>

・どのような経緯で WHO に入ったのか？

・歯科保健は国際機関で求められているか？

・特にありません。参考になりました。ありがとうございました。

・日本の官公庁からの出向制度が日本人国連職員の採用に与える影響について。

- ・国連機関に採用される「はじめの一步」の問題はどのように解決すればよいか。
- ・日本のコンサルはどうすれば ADB の仕事が取れるようなレベルになるのか。
- ・(国際機関の) コンサルタントとしての日本の大学・教育機関の参加可能性についておしえてほしい
- ・英語力はどの程度必要か (例えば TOEIC で何点くらい)
- ・仕事をするのに、特に日本人であったことがプラスに作用した経験、あるいはマイナスに作用した経験はどうであったか?
- ・日本でのベース (任期終了後に戻る職場について出向/派遣/休職/辞職) はどうなるのか?
- ・帯同家族の問題はどうであったか?

資料 1

国際保健の人材育成に関するアンケート

このアンケート調査は

「平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金 (H15-国際-001)」

研究課題：わが国の国際協力を担う人材育成および供給強化並びにキャリアパス拡充のため医学教育が果たすべき役割の研究

(班長 満田勉 長崎大学熱帯医学研究所)

の研究の一環として行われるものです。アンケートの回答所要時間は 10 分以内と想定しています (クローズドエンド部分)。アンケートは無記名でデータは研究の為にのみ使用され、目的外に流用されることは一切ありません。このアンケート全般につきご質問がある場合は下記のアンケート担当者あて御照会下さいますようお願い申し上げます。

アンケート担当者と連絡先

036-8562 弘前市在府町 5 番地 弘前大学医学部公衆衛生学 坂野晶司  
TEL 0172-39-5041 / FAX 0172-39-5042 / sakano-ky@umin.ac.jp

700-8558 岡山市鹿田町 2-5-1 岡山大学大学院医歯学総合研究科  
国際環境科学講座公衆衛生学分野 山本秀樹  
TEL 086-235-7184 / FAX 086-226-0715 / hidekiy@md.okayama-u.ac.jp

データ整理欄

W/E	<input type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> W	ID		CHKS <input type="checkbox"/>
-----	----------------------------	----------------------------	----	--	-------------------------------



**Q1.現在のあなたのことについて伺います。**

Q1-1	あなたの性別(Gender)は	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
Q1-2	あなたの年齢は	<input type="checkbox"/> 19歳以下 <input type="checkbox"/> 20～24歳 <input type="checkbox"/> 25～29歳 <input type="checkbox"/> 30～34歳 <input type="checkbox"/> 35～39歳 <input type="checkbox"/> 40～44歳 <input type="checkbox"/> 45～49歳 <input type="checkbox"/> 50～59歳 <input type="checkbox"/> 60歳以上
Q1-3	現在の立場で最も近いものを(複数の所属があるかたは、最も長時間を占有している所属につきお答え下さい。)	<input type="checkbox"/> 国内の大学生 <input type="checkbox"/> 国内の大学院生(修士課程) <input type="checkbox"/> 国内の大学院生(博士課程) <input type="checkbox"/> 海外の大学生・大学院生 <input type="checkbox"/> その他の学生(大学院研究生を含む) <input type="checkbox"/> 大学教員 <input type="checkbox"/> NGO・NPO 職員 <input type="checkbox"/> 国内行政職 <input type="checkbox"/> 国際機関(日本国内のものを含む) <input type="checkbox"/> 国内民間企業 <input type="checkbox"/> その他
Q1-4	あなたは日本国際保健医療学会に入会していますか	<input type="checkbox"/> 現在会員である <input type="checkbox"/> 以前入会していたが、今は入会していない <input type="checkbox"/> 今回の地方会を機に入会する予定 <input type="checkbox"/> 入会していない

## Q2. キャリアパスに関する情報

キャリアパスを積み上げてゆく上で、有効な情報源を見つけることは、非常に重要なキーポイントとなります。このセクションでは主にあなたの情報源に関して伺います。

Q2-1	現在のキャリア（学生の場合は大学）を決める際、最も決め手となったものを、あるいはなるであろうものを右記の選択肢から <u>ひとつ</u> 選択してください。	<input type="checkbox"/> 先輩・後輩などの人脈からの情報 <input type="checkbox"/> サークル・同好会などの人脈からの情報 <input type="checkbox"/> 先生・指導者などの人脈からの情報 <input type="checkbox"/> インターネット（ウェブ）からの情報 <input type="checkbox"/> インターネット（メーリングリスト・メールマガジン）からの情報 <input type="checkbox"/> 書籍・雑誌などの印刷媒体による情報 <input type="checkbox"/> その他
Q2-2	現在のキャリアを決める際、有効性は上記にゆずるものの、有効な補助的情報を得た情報源を <u>ひとつだけ</u> 選択してください。	<input type="checkbox"/> 先輩・後輩などの人脈からの情報 <input type="checkbox"/> サークル・同好会などの人脈からの情報 <input type="checkbox"/> 先生・指導者などの人脈からの情報 <input type="checkbox"/> インターネット（ウェブ）からの情報 <input type="checkbox"/> インターネット（メーリングリスト・メールマガジン）からの情報 <input type="checkbox"/> 書籍・雑誌などの印刷媒体による情報 <input type="checkbox"/> その他
Q2-3	あなたは 2003 年に開始した JICA の PARTNER を知っていますか？	<input type="checkbox"/> すでに登録済である <input type="checkbox"/> 知っているが登録はしていない <input type="checkbox"/> 知らない
Q2-4	あなたが現在購読しているメールマガジン・メーリングリスト（該当するものすべて）	<input type="checkbox"/> JICA メールマガジン <input type="checkbox"/> 国際保健メーリングリスト（IH・ML, IH・ML・EVENT） <input type="checkbox"/> 田中宇の「世界は今」 <input type="checkbox"/> AMSA・J メーリングリスト <input type="checkbox"/> その他（ ）
Q2-5	あなたのキャリアパス向上のために創設してほしいメディアを <u>ひとつ</u> 選んでください	<input type="checkbox"/> 人材・キャリア情報に特化したメールマガジン・メーリングリスト <input type="checkbox"/> 人材・キャリア情報に特化したウェブページ <input type="checkbox"/> 人材・キャリア情報が充実した印刷媒体の刊行 <input type="checkbox"/> 人材・キャリア情報を交換するための交流会の開催 <input type="checkbox"/> その他（ ）

### Q3. キャリアパス向上への障害

キャリアパスを伸ばしてゆくためには色々な障害があります。このセクションではこの障害についてお聞きします。

Q3-1	<p>あなたの国際協力分野のキャリアパスで最も大きな障害となっているものは何でしょう？ (ひとつ選んでください)</p>	<input type="checkbox"/> 希望するキャリアに関する情報が足りない、少ない <input type="checkbox"/> キャリアと自分のスキル（能力）が適合しない <input type="checkbox"/> 家族や職場の反対にあうなど、環境が難しい <input type="checkbox"/> 経済的な理由 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 障害はまったくない(Q4に進んで下さい)
Q3-2	<p>上記理由ほどではないものの、他に障害となっているものは何でしょう？ (ひとつ選んでください)</p>	<input type="checkbox"/> 希望するキャリアに関する情報が足りない、少ない <input type="checkbox"/> キャリアと自分のスキル（能力）が適合しない <input type="checkbox"/> 家族や職場の反対にあうなど、環境が難しい <input type="checkbox"/> 経済的な理由 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> ない。Q3-1の理由が全て

### Q4 自由記述

キャリアパス・人材育成等について、お気づきの点などあれば、ご自由にお書きください。また、後日個別のインタビューに応じてくださる方がいらっしゃれば、メールアドレスをお書きください。(インタビューは人数により、実施しない場合もあります)

メールアドレス \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

ご回答ありがとうございました。ご協力に感謝いたします。

